

小手森 綾香 (栄養疫学・食の情報)、石原 淳子 (疫学・公衆栄養学)、中舘 美佐子 (公衆栄養学)
高田久美子 (気候変動学)、西脇洋一 (数理・データサイエンス)

研究の背景

人々が健全な食生活を送るためには、その食物を生産する環境が持続可能であることが必要不可欠です。日本では、国民の健康増進のために、何をどれだけ食べればよいのかを示すフードガイドとして「**食事バランスガイド** (右図)」などが用いられていますが、現時点ではこれらのガイドに環境の持続可能性についての視点は含まれていません。

近年の栄養疫学研究では、**プラネタリーヘルス**の視点から、毎日の食事が環境にどれだけ負荷をかけているのかを数値化する試みがなされています。このプロジェクトでは、食事摂取量のデータから、その食事が食卓に上るまでに生じた**温室効果ガス**や**窒素の排出量**、水の使用量、土地の使用量などを推定し、食事摂取量と環境負荷の関係、さらには人の健康との関係を明らかにすることを目的としています。



アプローチ

- ① **システマティックレビュー/メタアナリシス**
先行研究を網羅的に調べて、世界的な現状について情報収集をします。
- ② **食事の環境負荷量の推定と妥当性の検証**
食事摂取量のデータから環境負荷の程度を推定し、その値が妥当であるかを確認します。とくに、③の大規模研究で用いる簡易的な食事調査で、適切な推定ができるか確認します。
- ③ **前向きコホート研究における疾病関連解析**
環境負荷の少ない食事が、ヒトの将来的な疾病リスクの増減と関わるかを調べます。
- ④ **地球温暖化と食事の環境負荷の関連**
地球温暖化における食事の環境負荷の寄与度について検討します。

期待される結果

食事摂取量と環境負荷の関係が明らかになれば、環境負荷を減らすために、どのような食事構成が適切なのかを議論できるようになります。また、近い将来、プラネタリーヘルスのために環境負荷の低い食事構成にシフトチェンジしたときに、人々の健康が損なわれてしまったりは元も子もありません。環境負荷の異なる食事が、人々の健康にどのような影響を及ぼすのかを明らかにしておくことで、**人々の健康と地球の健康 (プラネタリーヘルス) を両立させたフードガイド策定の重要な基礎資料**となります。

募集方法

2名程度を募集します。説明会へ参加し、参加希望の方は応募ください。募集期間終了後、応募者の方と面談を行い、可否を決定いたします。

疫学研究では、対象者の方から個人情報や生体試料をお預かりして、データ分析を行います。個人情報を守るためには、厳密なデータの取り扱い規則があり、得られた研究結果は社会に還元する使命があります。そのため、時間やルールを守れる方、責任感のある方に仲間になってほしいと思っています。そのほか、統計解析やプログラミングなどのデータサイエンススキルを身につけたい方、将来、人の健康に貢献する仕事につきたいと思っている方も歓迎します。